

前線を伴った低気圧による降雨対応状況

(平成24年9月12日17時現在)

前線を伴った低気圧による降雨により、北海道開発局札幌開発建設部では9月9日より24時間体制で、警戒・監視を行っています。

河川では9月12日に石狩川、幾春別川、空知川、旧美唄川、産化美唄川、幌向川で基準水位を超過したため、現地でのパトロール及び監視を行っています。

砂防では豊平川上流の定山溪市街地ほかで基準雨量を超過しているため、土砂災害発生の警戒のため現地でのパトロール及び監視を行っています。

ビバイクシュンベツ川においては美唄市からの要請により排水ポンプ車を派遣し浸水被害の解消のため同日10時15分より排水作業を開始しています。

また、同日10時より災害対策用ヘリコプター「ほっかい」を派遣し、北海道開発局札幌開発建設部、気象庁札幌管区気象台、北海道庁札幌建設管理部による上空からの調査を実施しました。

また、災害情報等の情報収集、災害応急対策の支援等を目的として岩見沢市に北海道開発局札幌開発建設部職員1名をリエゾン派遣しています。

岩見沢市、美唄市、三笠市などで浸水被害を確認しています。国が管理する区間について堤防など河川構造物の異常及び土砂災害の発生などは認められていませんが、引き続き、被災した自治体への支援、情報収集などを実施します。



リエゾン(災害対策現地情報連絡員)派遣とは

地震・水害・土砂災害等の大規模自然災害の発生時に、地方公共団体へ国土交通省職員を派遣し、災害情報等の情報収集、災害応急対策の支援等を行うものです。